
神隠し

拳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神隠し

【Nコード】

N0490A

【作者名】

拳

【あらすじ】

無職でプー太郎の熊野洋一（あだ名はプー）は毎日ダラダラした生活をしている。だが、中学の同級生が集団失踪をし、プーはその同級生達を探す事に。この小さな事件がやがてとんでもない方向に！？

プー

毎日が暇だ。

今年の春、俺は高校を卒業した。

でもやりたい事がなかったから就職はしなかった。

もう勉強もしたくなかったから大学にも行かなかった。

バイトでもするか。

と思ったがやる気が全くしない・・・。

卒業してから三ヶ月、親の脛を噛って毎日ダラダラ生活している。

そんな時、健一からメールが来た。

『今日遊ぼうぜ』 健一とは中学の頃から

の友達だ。

高校に入ってから俺は、中学の奴とは全く会わなくなったが、なぜか健一とは遊んでいる。

いつもどおり健一の家に俺が行った。

「よう！プー！相変わらず暇してんのか？」

「うるせーよ」

俺のあだ名はプーだ。

名字が熊野だから、小学生の頃からプーと言われていた。

でも今は本当にプー太郎という事もあって、それもかけている。

第2話・同窓会？

「中学のクラス同窓会どうする？」

「は？」

たわいもない話をしていたら突然健一が言い出した。

「今度の日曜あるんだよ」

「俺、初めて聞いたよ」

「おまえ、俺以外の中学の友達と連絡とってないだろ」

「だって携帯買ったの高校からだし・・・」

「タツヤンからメール回ってきたんだよ。プーも誘つていてっさ」

「俺は行くけど、プーもいくだろ？」

「どうせ暇だし行こうかな」

俺は同窓会に行くことにした。

少し気はすすまないけど・・・。

きつとほかの奴らは大学やら就職やら自分のやりたい道にすすんでるんだろうな・・・。

なんか会いづらい。

でも毎日が退屈で行けばおもしろい事があるかも、。

そんなちよつとした期待が俺を同窓会へと導いた。

日曜日、地元の駅に集合。俺は少し遅れて集合場所に向かった。

「あ！プー！」

俺を呼んだのはたぶんタツヤンだ。

だいぶ見た目が変わっていたが面影があった。

「プーあんま変わってないなー！」

「マジでー？なんか嫌だな」

と、そこへ

「私の事覚えてる??」

女の子が話しかけてきた。

見たことあるような気がするが思い出せない。

髪は肩ぐらいまでオレンジに近い

髪の色、目はぱっちりしている。

「えっと・・・ごめん。誰だっけ？」

「えー！ひどいよ！久美だよ久美！」

「久美？あの久美？」

中学の頃の久美はおとなしくていつも一人だった。

だから存在感が全く無かった。

ただ、頭がよくて学年でも三本の指にはいるほどだった。

そのため、存在感がなくても何か覚えていた。

「久美変わったなー。な、健一。」

「ああ。別人だよな」

「私そんなに変わったかな？」

「変わりすぎ」

俺、健一、タツヤン、久美、そして少し話したぐらいの付き合いだったマル、裕也、由希子、そして・・・??だれだっけ？かなり長い黒髪、かなり痛んだ髪、細い目をして目元に少し大きいホク口・・・。

こんな女の子いたっけ？俺が忘れてるだけか？

・・・それより何でたった8人しかいないんだ？

第2話・同窓会？（後書き）

なんか読みずらくてすいません。うまく改行ができないんですね。何とか練習して次からはうまくやります！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0490a/>

神隠し

2010年10月10日01時06分発行